

I 研究の概要

1 研究主題

「わかる喜び」と「学ぶ意欲」を高める学習指導の工夫

～基礎学力向上システムづくりを通して～

2 研究主題設定の理由

(1) 教育の今日的課題から

これからの子ども達に求められる力は、『生きる力』である。変化が激しく、かつグローバル化する社会の中で、学ぶ意欲や、将来直面する様々な課題を解決する力を重視することは、日本だけではなく国際的な課題とも言えよう。また現在の子どもたちは、様々な体験の機会が少なくなっているうえに、家庭の教育格差も広がり、加えて地域の教育力も低下してきているという状況に置かれている。よって前記の課題とあわせて、小学校低学年からの学力や、生活・自然・社会体験などの充実が必要である。

(2) 本校の教育目標から

本校の教育目標は、「生きる力を身につけた古城の子どもの育成」である。そこで本校では、『生きる力』を構成する三要素「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」の一つである「確かな学力」を中心に研究を進めることとした。確かな学力、すなわち①基礎的・基本的な知識・技能の習得、②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等、③学習意欲の3点について低学年の早期から取り組み、基礎学力の向上を目指すものである。

また本校は、平成 22、23 年度の2年間にわたり、熊本県教育委員会から「基礎学力向上システム推進事業に関するモデル校」の指定を受け、学校・家庭・地域の三者が相互連携、協力しながら、子どもたちの学力充実や、健やかな発達を目指すこととなった。そこでこの体制をシステム化し、取り組むこととした。

(3) 本校の実態から

① 学力の面から

標準学力テスト（NRT）の偏差値は、昨年度の「基礎学力向上システム推進」の取組の効果もあり、全体では 54.1、また熊本県学

力調査の結果では、定着率の県平均比較 110.4 であり、共に平均を上回っている。

② 思考力・判断力・表現力の育成の面から

本校は農村地帯にあり、児童は純朴で、学習態度も落ち着いている。ただ物事を主体的に判断したり、表現したりすることを苦手とする児童も存在する。

以上のことから個人差や家庭の教育力の格差も見られ、また低学年になるにつれ学力が低い状況も見られるため、低学年からの基礎学力の向上と、言語活動の充実を図ることを今後も継続していかなければならない。

3 主題のとらえ方

(1) 「わかる喜び」とは

基礎的・基本的な知識・技能を習得したときの喜びであり、さらに身に付けた知識・技能を「活用」して、自分の考えをまとめたり伝えたりすることができる喜びである。また、一人学びや学び合いによる課題解決で、「わかった！」という自覚を持ち、周囲からも評価されたとき、喜びは増すと考える。そして日常生活の中でも課題解決との繋がりが見えたとき、「わかる」ということが喜びになる。

(2) 「学ぶ意欲」とは

基礎的・基本的な知識・技能を習得した喜びや、さらに「活用」できた喜びという「わかる喜び」を通して自信を持つこと、そしてさらに学びたい、わかるようになりたいと進んで学習に取り組もうとする姿である。

また、学び合い学習からわかる喜びや認められる喜びが増し、さらに伝えよう、学ぼうとする意欲が高まると思われる。

(3) 「基礎学力向上システム」とは

学力は「子どもの学ぶ意欲」と「教師の指導力」、「地域、保護者の信頼」が高まって向上する。したがって学校では、授業の質を高める取組を行うと同時に、家庭では学校と連携して家庭学習を充実させる。そして、これらの取組をサポートするものとして、学校応援団（古城っ子応援団）と称して、地域に対して応援を呼びかけ、基礎学力の確実な定着のための学習支援体制づくりを行う。つまり、家庭・地域と連携した学習支援のあり方を探り、システム化するものである。

4 研究の仮説と視点

〈仮説 1〉 家庭学習と連動した授業づくりを行い、学び合い活動を充実させれば、子どものわかる喜びが増し、進んで学ぼうとする意欲が高まり、課題を解決するための思考力・判断力・表現力が向上するであろう。

視点① 授業と家庭学習の連動

- ア 家庭学習と連動した授業づくりの工夫
- イ 学習過程（古城っ子学習）の工夫

視点② 学び合い活動の充実

- ア 考えをまとめるための書く活動の指導
- イ 考えを深めるための話し合い活動の指導

〈仮説 2〉 古城っ子応援団による学習支援活動や学力充実活動による基礎・基本の習熟のための学習活動を工夫すれば、子どものわかる喜びが増し、進んで学ぼうとする意欲が高まり、基礎的・基本的事項の確実な定着を図ることができるであろう。

視点① 古城っ子応援団による学習支援活動

- ア にこにこタイム（地域ボランティアによる放課後学習支援）の実施
- イ サマースクール（高校生による夏休み学習支援）の実施
- ウ 読み聞かせ（地域ボランティアによる読み聞かせ）の実施

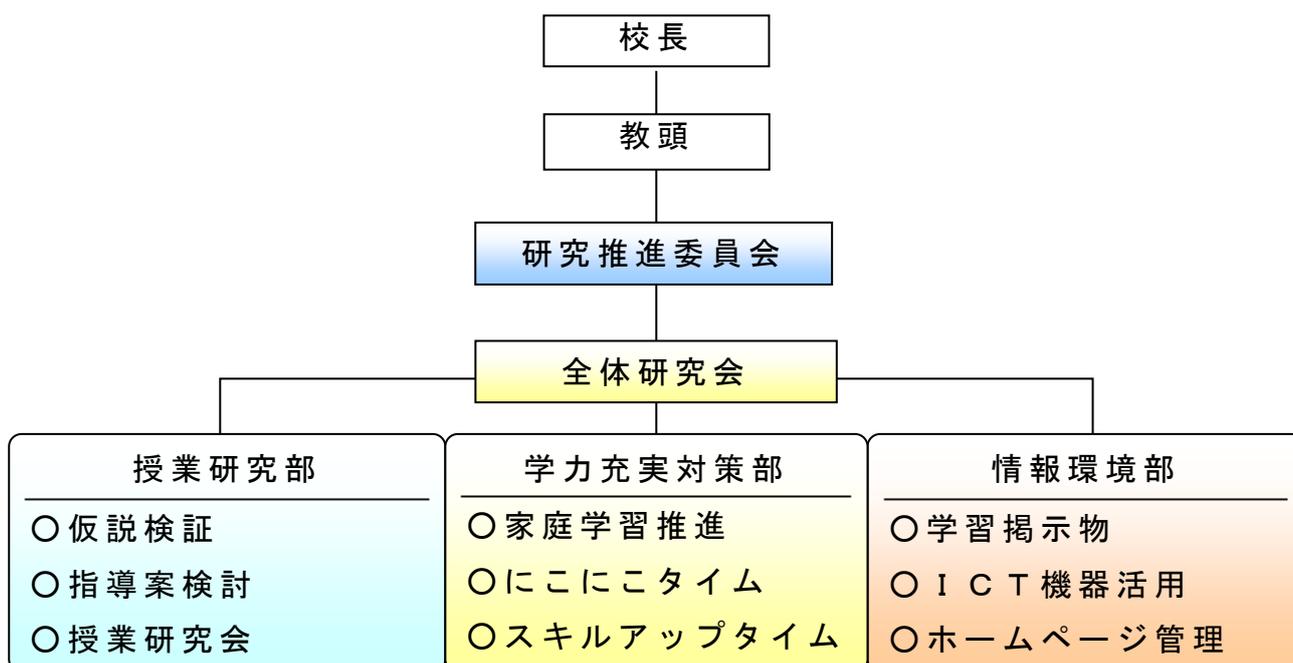
視点② 学力充実活動の工夫

- ア スキルアップタイム（補充学習）の実施
- イ 朝読書の実施

視点③ 家庭学習の習慣化

- ア にこにこカード（家庭学習計画表）の活用
- イ 通信による保護者の啓発

5 研究の組織



教育目標

生きる力を身につけた古城の子どもの育成



研究主題

「わかる喜び」と「学ぶ意欲」を高める学習指導の工夫
～基礎学力向上システムづくりを通して～

仮説 1

家庭学習と連動した授業づくりを行い、学び合い活動を充実させれば、わかる喜びが増し、学ぼうとする意欲が高まり、課題を解決するための思考力・判断力・表現力が向上するであろう。

仮説 2

古城っ子応援団による学習支援活動や学力充実活動による基礎・基本の習熟のための学習活動を工夫すれば、わかる喜びが増し、学ぼうとする意欲が高まり、基礎的・基本的事項の確実な定着を図ることができるであろう。

視点① 授業と家庭学習の連動

- ア 家庭学習と連動した授業づくりの工夫
- イ 学習過程(古城っ子学習)の工夫

視点② 学び合い活動の充実

- ア 考えをまとめるための書く活動の指導
- イ 考えを深めるための話し合い活動の指導

視点① 古城っ子応援団による学習支援活動

- ア にこにこタイム(地域ボランティアによる放課後学習支援)の実施
- イ サマースクール(高校生ボランティアによる夏休み学習支援)の実施
- ウ 読み聞かせ(地域ボランティアによる読み聞かせ)の実施

視点② 学力充実活動の工夫

- ア スキルアップタイム(補充学習)の実施
- イ 朝読書の実施

視点③ 家庭学習の習慣化

- ア にこにこカード(家庭学習計画表)の活用
- イ 通信による保護者の啓発

基礎学力向上システム

学校

- 授業の質を高める取組
- 基礎学力向上システムづくり

連携

家庭

- 家庭学習の連携
- ノーテレビ・ノーゲームデーの取組

支援

古城っ子応援団

- 学習支援
- 学習環境整備支援
- 安全支援

II 研究の実際

1 仮説1についての取組

(1) 視点① 授業と家庭学習の連動

ア 家庭学習と連動した授業づくりの工夫

家庭学習を反復練習だけでなく、本時の基礎基本を押さえた家庭学習の課題づくりをし、それを授業に生かす工夫をすることによってわかる喜びや学ぶ意欲を高めることができると考え、単元の指導計画全体を見通して、授業に生かせる課題を考えたり、また児童の負担にならないような家庭学習の課題づくりを行ったりする工夫をした。このような家庭学習課題を「こじょうっこワーク」と名付けて児童の課題意識や保護者の認識を高める工夫を行った。

〈指導計画全体を見通した家庭学習の課題づくり実践例〉

6年算数「割合の表し方を考えよう」

指導計画
第2時のこじょうっこワーク ○ウスターソースとケチャップの量の割合を調べる。 ○2つの量の表し方を考える。 ☑身まわりで、比を使ったものがないかを見つけてみよう
第6時(本時前)のこじょうっこワーク ○0.9:1.5、 $\frac{2}{3}$: $\frac{4}{5}$ の比を簡単にする方法を考える。 ☑小麦粉と砂糖を、重さの比が7:5になるように混ぜてケーキを作ります。何gと何gの組み合わせがあるだろう。
第7時の授業 ○小麦粉と砂糖の重さの比が7:5で、小麦粉を140gつかうときの砂糖の重さを、比の性質を使って求める。
第7時のこじょうっこワーク ○小麦粉と砂糖の重さの比が7:5で、小麦粉を140gつかうときの砂糖の重さを、比の性質を使って求める。 ☑牛乳と紅茶が、3:5になるようにミルクティーを作ります。 何gと何gの組み合わせがあるだろう。
第8時の授業 ○1200mLのミルクティーを、牛乳と紅茶を3:5の割合でつくる時の牛乳の量を、比の性質を使って求める。

比を学習した後に、身の回りで比を使ったものがないか、調べてくるといふ課題を設定した。児童の生活経験や、「比」という言葉を理解しているかを把握することにつながった。

小麦粉と砂糖の重さが何gの組み合わせがあるかという課題を設定し、次の時間の導入に活かした。児童が書いてきた重さの小麦粉と砂糖を実際に見せることで、本時の見通しを持つことにつながった。また、授業前に、児童の実態が把握でき、個別指導にも活かしていくことができた。



牛乳と紅茶が3:5になる組み合わせを考える課題を設定し、次の導入の時間に活かした。第7時で、ケーキの分量を考えたので、児童は、ミルクティーを作るのに、適当な重さを考えることができていた。そして、第8時の1200mLについて考えるとき、予想を立てて考えることにつながった。

次に家庭学習を、1時間の授業のどこで、どのように生かすかを工夫した。自分の考えを発表し、学び合い学習が深まり、「家庭学習をしてきてよかった」、「今度はもっとよく考えてこよう」と学ぶ意欲を高めることへとつながった。

〈1時間の授業の中で生かされた家庭学習実践例〉 2年国語「たんぼぼのちえ」

	学習活動
☐ つかむ みとおす	1 種を飛ばすちえについて振り返る。 2 学習のめあてをつかむ。 たんぼぼのわたげを遠くにとばすための理由(ちえ)を読みとろう。 3 ⑥と⑦段落を音読する。 ・難語句の理解 ・たんぼぼの様子とその理由をシートに書く。
☑ やってみる	4 「考えたこと」をシートに書く。 ・軸が花より高くなるのがすごい。 ・花がさいた後に軸が倒れて、また立つのがふしぎ。 ・花の軸が伸びることを、初めて知った。
☒ ふかめる	5 「考えたこと」を話し合う。 ① ペアで ② 全体で
☑ まとめる	6 学習のまとめをする。 ・⑥と⑦段落を音読する。 ・たんぼぼが種を遠くに飛ばす様子とその理由についてまとめる。
家庭学習	7 こじょうっこワークについて知る。 ・⑧と⑨段落の中で、たんぼぼの「すごい」と思ったところに線を引いてくる。

〈こじょうっこワークの課題〉

たんぼぼの「すごい」と思ったところが「たんぼぼのちえ」につながることから、「たんぼぼのすごい」と思ったところに線を引こう。」という課題を設定した。

〈こじょうっこワークを生かした所〉

たんぼぼの「すごい」と思った所に線を引かせた。その「すごい」と思った様子とその理由について発表させ、たんぼぼのちえをまとめる確認を行った。



〈こじょうっこワークの成果〉

- 本時では、授業の導入時にこじょうっこワークを入れた。事前に担任が点検していたこともあり、児童は自信を持って発表することができた。そのことで学習に対する意欲が高まった。
- たんぼぼのすごいと思ったところに線を引いてとらえていたので「たんぼぼのちえ」をとらえやすかった。
- 家庭でも考えるので、授業内容に対しての興味が持続した。
- 予習の意味も含めてこじょうっこワークを課すことで、次時に関する意欲が増した。提示の仕方が前時と同じなので、あまり負担にならなかった。

イ 学習過程「古城っ子学習」の充実

児童が見通しを持って学習を進めることができるように、基本的な1単位時間の流れを「古城っ子学習」として、学びの手順を示した。授業でこの学習過程を繰り返すことで、児童に学び方を習得させた。また学習過程のカードをそれぞれ作り、授業の際に黒板に掲示して、学習過程の段階を教師も児童も意識するように心がけた。

古城っ子学習	指導の工夫
こ れ、なあに？ ◎学習のめあてをつかみ、見通しをもとう。	◎学習意欲を喚起する。 ・学習の見通しを持ちやすい教材や発問を工夫する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">家庭学習を生かす</div>
じ ぶんでしらべ、 ◎自分でやってみよう。	◎じっくり考える時間を設ける ・一人学びの時間を確保し、自分の考えを持たせる。
よ くつたえ、 ◎ペアやグループ、みんなで話し合おう。	◎学び合い、高め合う場面を設定する。 ・自分の考えを発表したり、友達の意見を聞いたりして、思考を深めさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">家庭学習を生かす</div>
う まくまとめよう。 ◎学習をまとめ、さらにやってみよう。	◎指導したことを評価する。 ・ねらいが達成できたかを把握し、個に応じた手だてを講じる。 ・「身に付けたい力」を生活に活かす方向性を示す。
こ じょうっこワーク ◎家でやってみよう。	◎授業と連動した次時の家庭学習課題を提示する。 ・家庭で一人でもできる、次時につながる課題を示す。

〈話し合いを深めるときに生かした家庭学習の授業実践例〉

5年国語「生き物は円柱形」

	学習活動
よ ふかめる	5 ペアでお互いの考えをわかりやすく説明し、生き物が円柱形である例や例外、そして円柱であることが書かれているのはなぜか、文の構成について考えを深める 

〈こじょうっこワークの課題〉

「新聞紙を円柱形と角柱にした場合の強度について実験してくる。」
 文章では理解しにくいことを家庭で実験させることで円柱形が強いことを実感させようとした。

理由が書かれているところで、もう一度新聞紙の実験を行い、円柱形は強いことを確認する。

「私は円柱形のをさをおかしてもらうためと思います。」
 「ぼくは、生き物には円柱形という共通性があることを詳しく知ってもらうためと思います。」
 「円柱形は、強く、速く、便利であることを読み手に伝えてもらうためと思います。」

(2) 視点② 学び合い活動の充実

ア 考えをまとめ、話し合うための書く活動の指導

「書く」という活動は、考えていることを文字として表すことにより、分かっていることや分からないことを整理したり、自分の思いや考えなどを明らかにして、確認したりすることができる。そこで、「書く活動」を家庭学習や一人学びの時間に位置づけている。大事な言葉や文、挿絵などに着目したり、考えを書くときの手だてを参考にして書いたりするという、課題解決の見通しをもたせ、より児童が取り組みやすいように指導した。

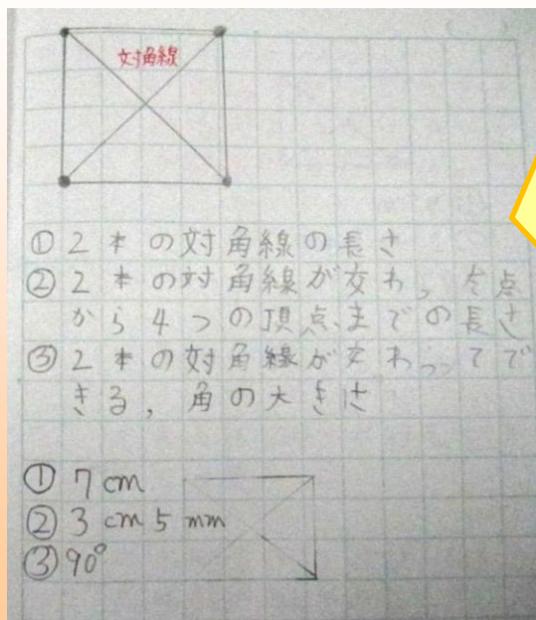
〈書く活動の実践例〉 2年国語「たんぽぽのちえ」



たんぽぽの様子とその理由について、自分なりの考えを一人学びの時間に書いている。学習過程の中に必ずこの書く活動を取り入れることで、自分の考えを明確にさせることができる。ここで自分の考えが明らかになっていると、話し合い活動への移行がスムーズに行われる。いろいろな場面で書く活動を習慣化させてきたので、書くことへの抵抗も少なくなってきた。

〈書く活動の実践例〉 4年算数「四角形をつくろう」

「一人学び」で、いろいろな四角形の対角線の特徴を調べるために、文章で対角線の特徴を調べる方法や、わかったことを箇条書きにまとめた。



- ・ こじょうっこワークで、まず正方形を調べてきていたので、導入で解決の見通しをもつことができ児童は自信を持って学習に臨むことができた。
- ・ 発表するときに測った結果を理由にして、わかったことを伝えることで、相手にも伝わりやすくなった。
- ・ 対角線の長さや角度を測ることで、定規、分度器を使いこなせているかも見ることができた。
- ・ こじょうっこワークを授業前にチェックし、測り方・結果が違っていた児童には、机間指導で理解させたり、定規や分度器の使い方を指導したりすることができた。

イ 考えを深めるための話し合い活動の指導

話し合い活動では、友達のことを聞いて、類似点や相違点に気づき、質問して考えを確かめたり、友達の意見の良いところや取り入れたいところなどを話し合ったりして、自分の考えを広げ、深めることをねらいとする。

そのために、下記のような「話し合いの指導事項」を明らかにし、学習指導要領をもとに作成し実践した。

〈話し合いの指導事項〉

	ペア	グループ	話し方・聞き方
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・興味をもって聞く。 ・尋ねたり応答したりする。 ・感想を述べたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話を集中して聞き、話題に沿って話し合う。 ・考えを一つにまとめたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はっきりわかるように話す ・話す人を見て聞く。 ・最後までしっかり話す、聞く。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・共通点や相違点を考えながら聞く。 ・質問して自分の意見を整理する。 ・意見を述べたり、感想を述べたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通点や相違点を考えながら意見を述べ合う。 ・司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合う。 ・聞いた意見を整理して、意見や感想を述べたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧な言葉遣いで話す。 ・理由や事例をあげてわかるように話す。 ・話す人を見てうなずきながら聞く。 ・必要なメモを取りながら聞く。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の意図をとらえながら聞く。 ・自分の意見と比べながら聞き考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・立場や意図をはっきりさせ、計画的に話し合う。 ・いいところを取り入れたり質問したりしながら討論をして考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通語など適切な言葉遣いで話す。 ・目的や意図が伝わるように話の構成を考えて話す。 ・自分の考えと比べながら聞く。

また、上記の「話し合いの指導事項」をもとに、「学び合い学習のしかた」として低学年用、高学年用に作成し、児童が能動的に話し合いができるように指導した。

「学び合い学習のしかた」

まなびあいのしかた

1 じぶんのかんがえをはっぴょうする。

わけも入れてわかりやすくはなす。

2 ともだちにしつもんしたり、こたえたりする。



低学年用

学び合い学習のしかた

1 自分の考えを発表する。

理由も入れてわかりやすく話す。

2 話し合って考えをまとめる。

次の3点で考えをまとめる。

- ① にている点
- ② ちがう点
- ③ よい点・取り入れたい点

高学年用

1 自分の考えを発表する。

話し合いを始めます。

Bさんからの考えを発表して下さい。

Aさん: はい、私は…と書きます。わけは、…だからです。

Bさん: 私は…と書きます。わけは、…だからです。

2 話し合って考えをまとめる。

にている点やちがう点について、話し合います。Bさん、どうですか？

Aさん: 私の意見とここが、にていると書きます。私ほここがちがうと書きます。

Bさん: わかりました。はい、はい。

…だから、この意見、理由、よい点や取り入れたい点を話し合っただけです。Bさんから書いてください。

私は、Aさんのここがよかったので、取り入れたいと書きます。

それでは、Bさんのほかの点も取り入れて次のようにまとめたので書いてください。

※ワークシート参照

共通

〈話し合い活動実践例〉 4年算数「四角形をつくろう」

学習活動

よ
ふ
か
め
る

5 みんなで話し合っ、いろいろな四角形の対角線の特徴をまとめよう。

T：グループで話し合っ、表にまとめましょう。(2～3人のグループで話し合い活動)

司会 C 1：自分の調べたことを発表してください。



司会 C 1：似ている点や違う点について話し合います。

司会 C 1：では、よかったところや、取り入れたいところも入れて、まとめます。

T：話し合ったことを発表してください。

C 1：ひし形は・・・。平行四辺形は・・・。C 3さんの台形は、垂直になったけどほかの人はならなかったの、いつでも決まった角度にならないことが分かりました。



- ・こじょうっこワークで調べたことを発表し、自信を持って授業に臨んでいる。
- ・教師が封筒に入れた様々な四角形を配布。



C 2：わたしの台形は長さが・・・だったので2つの対角線の長さは違いました。角度もすべてちがいました。平行四辺形も長さが違いました。角度は向かい合う角度が同じでした。ひし形も長さ違って、角度は垂直で同じでした。

C 3：ぼくは台形の対角線の長さは違うけど、垂直のところは同じでした。平行四辺形とひし形はC 2さんと同じでした。

C 1：ぼくはC 2さんと全部同じでした。

C 3：みんなの台形は、どんな形か見せて。台形の対角線は、形によって垂直に交わったり、違ったりするんだね。

C 1：台形は、長さが同じだったり違ったりしていて、角度も垂直だったり、違ったりしているので、どんな台形でも対角線は必ず同じではないということがいえると思います。

C 3：みんなのをまとめると、ひし形は垂直に交わるのは同じでけど、長さはいつも違ってきます。

C 2：平行四辺形はみんな長さも、角度も違ったので、平行四辺形の対角線は、いつも同じではないということがいえると思います。

〈家庭学習と学び合い学習を生かした授業実践例〉 1年算数「たしざん」

	学習活動
こ つ か む み と お す	1 問題文を読み、「あわせて」の場面を考えていくことをとらえ、題意を理解する。 2 学習めあてをつかむ。 9 + 4 のけいさんのしかたをかんがえてともだちにつたえよう。
じ や っ て み る	3 9+4の計算の仕方を自分で考え、説明できるようにする。 ・1こずつかぞえると、13ことわかりやすい。 (どんぐりの具体物を操作して考えた児童) ・4から1ひいて9にたして、あと3がのこったから13こだとわかりました。 (ブロックの半具体物を操作して考えた児童) ・9に4の1をたして10になり、10に3をたして13になりました。 (ブロックの半具体物を操作して考えた児童) ・4-1+9=13 (式で考えた児童)
よ ふ か め る	4 「考えたこと」を話し合う。 ③ ペアで話し合う。 ④ 全体で話し合う。 
う ま と め る	5 学習のまとめをする。 ① わかったことをまとめる。 ② 9+3の計算をまとめる。
家 庭 学 習	6 こじょうっこワークについて知る。 ・9+3の計算の仕方をおうちの人に説明しよう。

〈こじょうっこワークの課題〉
 ① 本時に生かす履修内容の復習的課題
 ・「10よりおおきいかず」の内容から、10のまとまりを意識する課題。
 ・「いくつといくつ」の内容から、10までの数の合成・分解をする課題。
 ② 本時の問題文を読む予習的課題

〈こじょうっこワークを生かした所〉
 自力解決の学習過程場面で、ワークシートに自分の考えを書くときのヒントにするように助言した。



C 1 : わたしはブロックでかんがえました。9に4の1をたして10になります。10に3をたして13になりま

C 2 : ぼくはどんぐりでかんがえました。

C 3 : ぼくはブロックでかんがえました。

C 1 : C 3 さんにおたずねします。1はどうしたんですか。

C 3 : 1は9のところにつしました。

〈こじょうっこワークの成果〉
 ○本時の言語活動をもとに、こじょうっこワーク「9+3の計算の仕方をおうちの人に説明しよう。」を課すことで、児童の言語活動への意欲が高まった。

〈家庭学習と学び合い学習を生かした授業実践例〉

3年国語「ちいちゃんのかげおくり」

	学習活動
こ つ か む み と お す	1 前時の学習をふり返る。 2 学習のめあてをつかむ。 ひとりぼっちになっていくちいちゃん の気持ちを考えよう 3 戦争に関することばの意味を確認し、 第三場面を音読し、ちいちゃんのおか れた状況を考える。
じ や っ て み る	4 文章の叙述から、ちいちゃんの気 持ちを考える。 ○二つの「お母ちゃん」とさけぶち いちゃんの気持ちを想像して吹き出しに 書く。
よ ふ か め る	5 自分の考えをもとに友だちと 話し合う。 ① ペアで話し合う。 ② 学級全体で話し合う。  
う ま と め る	6 学習のまとめをする。 ① 学習の振り返りをする。 ② 心にのこった部分を読む。
家 庭 学 習	7 こじょうっこワークについて 知る。 ○第四場面で、次の日の朝の町の 様子が分かる言葉を見つけて きましょう。

〈こじょうっこワークの課題〉
本時のめあて「ちいちゃんの気持ちを
考える」ために次の課題を設定し
た。
○第三場面の二つの「お母ちゃん」
の読み方のちがいを考えてこよ
う。

〈こじょうっこワークを生かした
所〉
こじょうっこワークで考えてきた
ことをもとに、ちいちゃんの気持
ちをワークシートに書いていく。

C1：ぼくは「お母ちゃん、こわ
いよう。」と思っていると思
いました。理由は、お母さん
とはぐれたからです。

C2：私は「はぐれちゃったよ。
どうしよう。」と思ってい
ると思います。理由は、ちい
ちゃんは一人でどうすること
もできないからです。

C1：「こわい」と「どうしよう」
は、にていると思います。

C2：にているところをまとめて、
ちいちゃんは、お母さんとは
ぐれてこわくて、どうしよ
うと思っているにすればいい
と思います。

〈こじょうっこワークの成果〉
○事前に二つの「お母ちゃん」の
気持ちを考えてきたことで、ど
の児童もワークシートにちい
ちゃんの気持ちを書き込むこと
ができていた。
○こじょうっこワークを取り入れ
ることで、思考を深めていく場
面で、時間を十分確保すること
ができた。

2 仮説2についての取組

(1) 視点① 古城っ子応援団による学習支援活動

① 古城っ子応援団づくり

ア 地域のコーディネーターと学校のコーディネーターを決める

コーディネーター		内 容
地域	学校評議員	公民館長、区長会長、民生委員がそれぞれ組織に働きかける
	P T A 三役	保護者に働きかけ、学習サポートと読み聞かせを募集
学校	校 長	地域の高校や教育委員会との連携
	教 頭	募集、名簿作成と学期1回の案内状配布、ボランティア保険
	教務主任	毎週火曜日の放課後学習「にこにこタイム」の受付と連絡調整

イ 古城っ子応援団の活動内容をしぼり込む

学習サポート	環境整備サポート	交通安全サポート
1 放課後学習サポート (1) 毎週火曜日放課後 (2) 1・2・3年生対象 2 サマースクール 前期：7月末に3日間 後期：8月末に3日間 3 読み聞かせ 毎月第3金曜日実施	学校美化サポート (1) 除草作業 (2) 学校園整備 (3) 校内の清掃	子ども見守り隊 (1) 登下校の安全指導 (2) 不審者対策 (3) 子ども110番

ウ 放課後学習サポートとサマースクールについて

	放課後学習サポート	サマースクール
いつ	毎週火曜日 15:00～16:00	7月：下旬3日間 9:00～11:00 8月：下旬3日間 9:00～11:00
どこで	1・2・3年教室	各学年教室
だれが	地域・保護者で名簿に登録された方々	高校生・大学生
どんな内容を	<ul style="list-style-type: none"> 折り紙、お手玉など手の巧緻性を養う。 音読やかかけ算九九を聞いてもらう。 国語や算数のプリントの丸付け 	7月：1学期の復習プリント 8月：夏休みの宿題
どのようにサポートするか	<ul style="list-style-type: none"> 低学年（1・2・3学年）対象に丸付けや言葉かけ 「認め、褒め、励まし、伸ばす」の基本姿勢、守秘義務の理解 丸付け用のペンや解答、スタンプ、シールは学校で準備する。 	

② 学習支援活動

ア にこにこタイムの実施

〈目的〉

- 放課後の時間を活用し、低学年の児童の国語、算数における基礎基本の習熟を図る。
- 学習サポーターの協力の下、児童の学習に対する興味関心、意欲の喚起を促し、地域の方との交流を図る。

〈活動の様子〉

にこにこタイム（1学年）



入学後間もない1年生では、遊びの要素を取り入れた活動も取り入れた。季節の行事に関する活動や昔遊びなどサポーターの特性を活かした学習活動も行った。

- ・手先の巧緻性を養う活動（お手玉、七夕の飾り作りと飾りつけ、箸を使った豆運び、折り紙など）
- ・季節の行事や伝承遊び（七夕飾り作り、お手玉、おはじき、あやとり等）
- ・国語（ひらがなプリント、音読を聞いてもらう）
- ・算数（たし算やひき算プリント）など

にこにこタイム（2学年）



学習活動に取り組んできた2年生は、自分の課題に応じて学習を進め、学習サポーターに丸付けをしてもらったり、わからないところのアドバイスをもらったりして意欲的に活動した。

- ・国語（言語事項の基礎を身につける学習プリント、音読を聞いてもらう）
- ・算数（たし算やひき算プリント、かけ算九九の暗唱）

にこにこタイム（3学年）



自分の課題に応じて、学習活動を進める3年生は、学習サポーターに丸付けをしてもらった後、再度間違った問題に意欲的に挑戦する姿が見られるようになった。また、前学年の問題をすることもあり、基礎的基本的な内容を補習したり、確認したりして授業での学習効果を高めた。

- ・国語（言語事項の基礎を身につける学習プリント、音読を聞いてもらう）
- ・算数（たし算やひき算プリント）

〈児童の感想〉

- ・今日はかけ算の2のだんを聞いてもらいました。二六まではスラスラ言えたけど二七をまちがえました。でも、おじいちゃんがにこにこしてがんばれと言ってくれたから、うれしかったです。もう一度やるとちょっとじょうずになりました。
- ・プリントが終わるとすぐ丸付けをしてもらえるので、プリントがたくさんでき、勉強になります。
- ・「字がきれいね。」とか「よくできたね。」とほめてもらえるので、やる気が出ます。

〈学習サポーターの感想〉

- ・孫のような年のお子さんたちと一緒に勉強するのはとても楽しいです。特に「おばあちゃんできたよ」といって笑顔で話しかけられるとわたしも笑顔になります。お勉強を教えるのはちょっと難しいこともありますが、これからも健康な限りお手伝いしたいと思います。
- ・「にこにこタイム」がある日が楽しみです。今では、生きがいに なっています。
- ・だんだん字がきれいになって集中力がついてきているのがわかり、うれしいです。

イ サマースクールの実施

〈目 的〉

- 夏期休業の時間を活用し、児童の国語、算数における基礎基本の習熟を図る。
- 学習サポーターの協力の下、児童の学習に対する興味関心、意欲の喚起を促し、さらに交流を進め、生涯学習につなぐ。

〈活動の様子〉

サマースクール（高校生ボランティアによる学習支援）



本年度のサマースクールに参加した高校生ボランティアの数はのべ66人で、参加の多い日には、児童2名に対して高校生1名の学習サポート体制を組むことができ、充実した学習支援を行うことができた。児童にとって親しみやすいお兄さん、お姉さんに教えてもらうことで意欲的に課題プリントに取り組み、学習効率を高めた。何より、児童にとっては高校生とふれあい、夏休みの貴重な思い出になった。

また、本年度、大学生ボランティアを招き、高学年の学習サポートを行った。学習支援はもとより、ボランティア自身の大学進学の実績や大学での研究内容などを児童に話してもらい、児童の進路についての貴重な学習となった。

ウ 読み聞かせの実施

〈目的〉

- 読み聞かせを通じて、児童の読書に対する興味関心、意欲の喚起を促し、豊かな読書活動につなぐ。

〈活動の様子〉

読み聞かせ



おもやい学習講座（本校主催）の受講生を中心にした7名の読み聞かせボランティアが、担当学年を決めて、朝の読書の時間（職員朝会）に読み聞かせを行った。児童も月1回の読み聞かせの時間を楽しみにしていた。

(2) 視点② 学力充実活動の工夫



ア スキルアップタイム（補充学習）の実施

国語（漢字や言語事項スキル）、算数（基本的な計算スキル）を向上させる目的で行った。児童の課題に応じて職員の複数の指導体制により個別に対応した。



イ 朝読書の実施

学校の図書館や学級に備付された「一の宮図書館の30冊」（毎学期年間90冊）を中心に、年間の目標冊数を決めて読書に取り組んだ。

(3) 視点③ 家庭学習の習慣化

ア にこにこカード（家庭学習計画表）の活用

にこにこカード

日	きょうの勉強	国語	算数	社会	理科	他	きょうの勉強時間	読書の冊数	達成率
17月 26日	さん数、国語、体育、おまじり	プリントはい	どうぶつ園のしがい	00	00		35分	0	ok
17月 27日	さん数、国語	プリントはい	どうぶつ園のしがい	00	00		41分	0	ok
17月 28日	国語、さん数、体育	プリントはい	どうぶつ園のしがい	00	00		30分	0	ok
17月 29日	国語、さん数、体育	プリントはい	いなばの白うさぎ	00	00		29分	0	ok
17月 30日	国語、さん数、体育	プリントはい	いなばの白うさぎ	00	00		32分	0	ok

日	きょうの勉強	国語	算数	社会	理科	他	きょうの勉強時間	読書の冊数	達成率
17月 26日	国語、算数	プリントはい	どうぶつ園のしがい	00	00		35分	0	ok
17月 27日	国語、算数	プリントはい	どうぶつ園のしがい	00	00		41分	0	ok
17月 28日	国語、算数	プリントはい	どうぶつ園のしがい	00	00		30分	0	ok
17月 29日	国語、算数	プリントはい	いなばの白うさぎ	00	00		29分	0	ok
17月 30日	国語、算数	プリントはい	いなばの白うさぎ	00	00		32分	0	ok

本校では、家庭学習について、子どもが自ら学ぶ習慣を付け、学校と家庭との連携を図り学習の相乗効果を高める目的で、学年に応じた系統的な取組を行った。学校と家庭の連携を図り、子どもが見通しを持って家庭学習に取り組むことができるよう「にこにこカード（家庭学習計画表）」を全学年で共通して使用した。家庭学習の内容の確認、音読カード、1週間のふりかえり等の家庭学習が一括して把握できる構成にした。保護者へ学習状況の確認及び児童のがんばりを認め、励ますよう促した。

イ 通信による保護者の啓発

学校だより

校長から、校内の様々な取組や行事を紹介する学校便りで、基礎学力向上システム事業の推進状況を定期的に知らせ、保護者の関心を高めようとした。

研究通信「えがお」

基礎学力向上システムのモデル構築を図る本校の取組を、家庭に知らせるために、研究通信「えがお」を発行し、保護者の啓発を行った。授業研究の取組、にこにこタイム、読み聞かせ、サマースクールなどの取組や児童の様子を紹介した。



Ⅲ 研究のまとめ

1 研究の成果

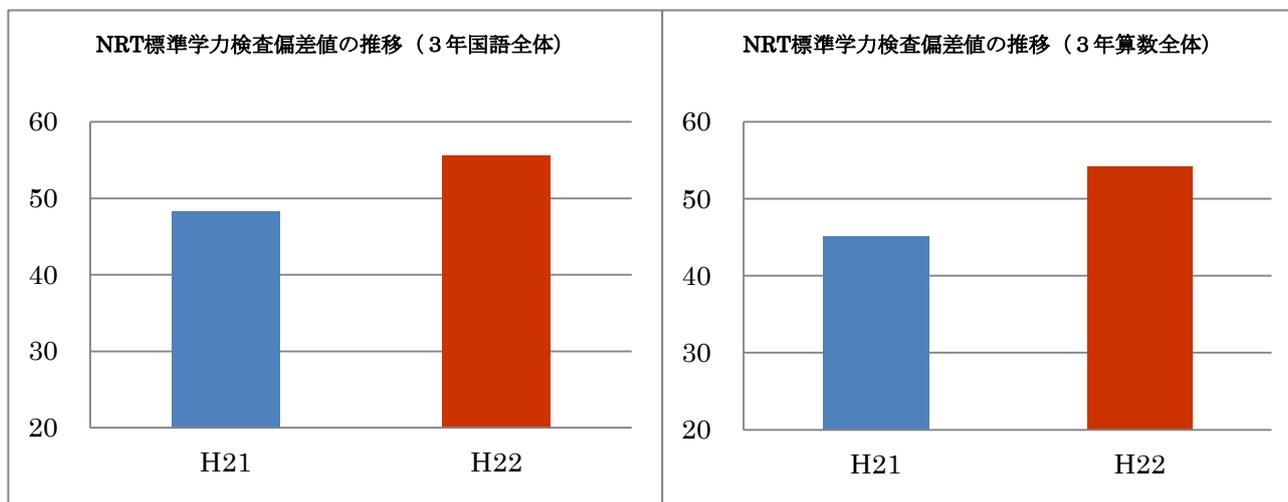
(1) 基礎学力の向上について

仮説1の「家庭学習と連動した授業づくり」と「学びあい活動の充実」、仮説2の「古城っ子応援団による学習サポート」の授業実践により、次のような学力の向上が見られた。

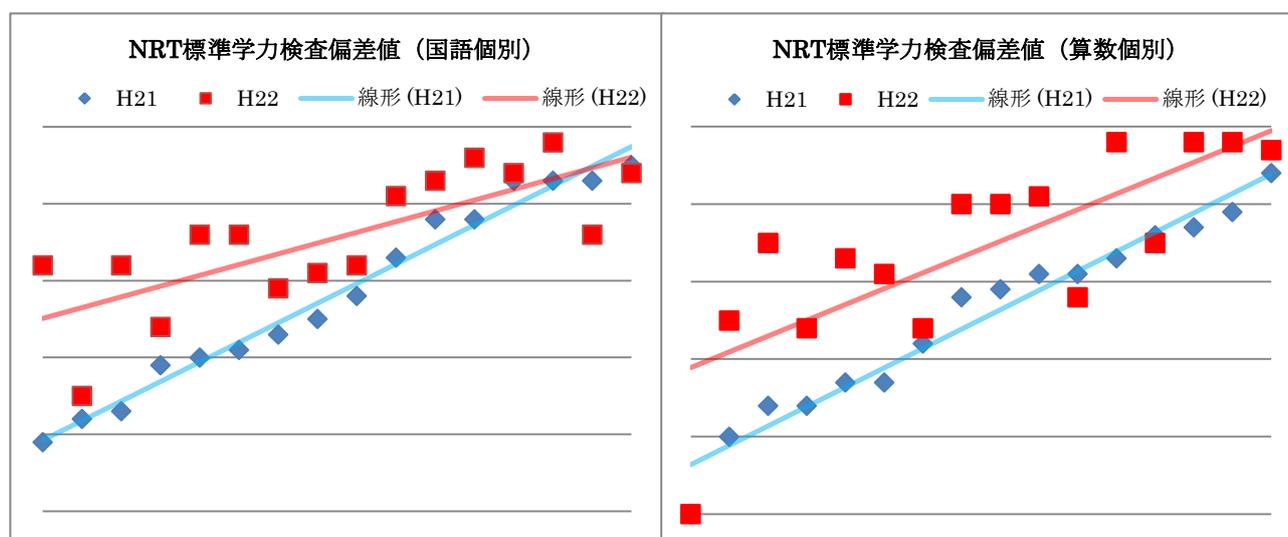
標準学力検査（NRT）から

第3学年全体の偏差値の推移をみると、本研究を進める前（H21）と後（H22）では大幅な向上がみられた。

各教科を領域別にみると、国語では「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、算数では、「数と計算」、「量と測定」の領域での前年比20～40%程度の伸びがみられた。



また、偏差値の推移を個別にみても、全体的な底上げが図られ、国語では前年度低位の児童に向上が目立ち、算数では、全体として向上がみられた。



向上した要因については、「にこにこタイム」でのプリントによるテストへの習熟や集中して取り組む姿勢ができてきたことによることも大きいことに加え、語彙の増加や題意を読み取る力、計算力の向上など、基礎・基本の定着によるものと考えられる。

（２）家庭学習と連動した授業づくりについて

① 市内の家庭学習調査から

調査結果では、すべての小学校でほとんど毎日家庭学習の課題が出され、主に国語の音読、漢字読み書き、算数の計算のドリル等が行われている。また、理科専科のいる小学校や中学校では、予習やレポート作成など、授業と連動した取組が行われているものの個々の教師の取組にとどまっている。本研究において、日常的に取り組む方法として「にこにこカード」や単元を見通した課題作り、授業での生かし方について、具体的な示唆が得られたことは大きな収穫となった。

② 家庭学習の課題と授業づくりについて

- ・ 単元の基礎的・基本的事項を押さえ、単元全体を見通して計画的に課題を考えたことにより、基礎・基本の定着につながった。また授業がスムーズに進行し教師が教材に深くかかわることができ、児童の思考や理解もより深めることができた。
- ・ 授業の中で家庭学習でやってきたことが、いつ発表できるか、児童にとっては楽しみになり、「してきてよかった」、「授業がわか

りやすかった」という意欲や自信につながる感想が見られた。

- ・ 「にこにこカード」により、家庭学習を家庭と連携して実施し、保護者が児童の学習の様子に関心を持ってもらったり、児童とのコミュニケーションができたりしていることが、保護者の感想からも伺えた。

(3) 学校応援団による学習サポート

① 「にこにこタイム」について

- ・ 課題が終わったらすぐに応援団の方々から丸付けをしてもらえるので、その場で間違いの訂正ができ、わかる喜びの向上につながった。また「字がきれいね。」「よくできたね。」などと褒められたり、励まされたりしたので、子どもたちは意欲的に集中して課題に取り組むことができ、漢字を読み書きする力や計算力が高まってきている。
- ・ 応援団の方々が無理をされないように、来られた方々だけで充実して実施することができた。

② 「サマースクール」について

暑い中での実施にも関わらず、高校生に優しく丁寧に教えてもらったので、子どもたちは意欲的に次々と1学期の復習プリントに取り組んだ。また後半は夏休みの課題の丸付けをしてもらい、その場で間違いの訂正ができた。

2 研究の課題

(1) 家庭学習と連動した授業づくりについて

子どもたちが次の授業への意欲を持ち、かつ負担を感じない程度の家庭学習の課題づくりを、今後更に検討する必要がある。

(2) 学び合い活動について

子どもたちは自分の考えを書くことができるようになってきたが、それを対話活動によって広げ、深めるという点においてはまだ不十分である。今後子どもたちが学び合い活動をスムーズに行えるよう、研究を継続して高めていく。

(3) 学校応援団による学習サポート

地域の方々や保護者、高校生、大学生の負担にならないよう、できるところから進めているが、今後とも毎年、啓発と協力をお願いを続けていく必要がある。